

1年生、一緒に錦城の歴史を残しませんか？ 『休校特別版』ができるまで～4月悪戦苦闘編



休校特別版

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなで作る
錦城高校新聞

1年生にも錦城高校新聞を知ってもらいたくて、急遽今号作成しました。興味のある1年生は、ぜひ編集部に来てくださーいね。



PCの編集画面はこんな感じ。皆との情報共有から勉強との両立まで、いざやってみたら結構大変でしたが…。

このオンライン新聞づくりで大変なのは、LINEで話し合いです。いつもは顔を合わせて話すのが当たり前なので、議論を進めるのは苦

既読スルーとの戦い

必要な取材やアンケートはLINEなどで行い、記事が書いたら他の委員に添削してもらいます。完成した記事は、編集担当がまとめて完成です。担当の先生からOKが出たら、クラッシュに配信され、皆さんのスマホに届きます。

オンラインで見えてきた事

今回のオンライン作業で気づいた、一番大切なことは、迫りくる締め切りを守ること（まあオンラインに限ったことではないですが）。編集室ではすぐに終わるような仕事でも、在宅だと時間がかかってしまいます。休校期間中に発行できなければ意味がない

し、何より錦城生の「いま」を伝えるのが錦城高校新聞の役目です。そして、それと同じくらい大切なのは、情報を全員に共有すること。記者一人ひとりが仕事を持ち寄って、一つの紙面にまとめるのが新聞づくりなので、一人でも仕事

が滞れば全体に影響します。実際に顔を合わせられない休校期間だからこそ、情報共有は重要です。オンラインでの制作は慣れない部分が多いですが、自分の好きな記事を書けるのはいいところの一つです。普段は行事や部活などの取材に追われがちですが、少し落ち着いて、自分の興味に赴くまま記事を書いたりもしています。



普段は外部取材もしています（写真は昨年の東京2020イベント取材）

コロナウイルスの影響で、宿泊研修や春の球技大会などの学校行事や、部活の大会も中止になりました。何をすることも様々な制約がある中で、私たち錦城高校新聞委員会編集室ができることは、錦城生の声を「伝える」こと。伝えて、新聞として錦城の歴史に残すことです。思い出になるはずだった、行事や大会に参加できないその気持ちを、余さず紙面に詰め込みたい。そんなつもりで、オンラインの錦城高校新聞を作っています。

今号は文字ばかりになってしまいました。オンライン版は試行錯誤中です。ぜひ声をお寄せください。ね。（燕）

皆の気持ちを届けたい

いところの一つです。普段は行事や部活などの取材に追われがちですが、少し落ち着いて、自分の興味に赴くまま記事を書いたりもしています。

3年副委員長(ちょっと)熱く語る!

新聞委員会は全国レベルの活動を通して、将来どんな仕事に就いたとしても活かせる社会での礼儀や人との接し方、文章の書き方などを学ぶことが出来る、と語るのは元副委員長の栗須祐真くん。栗須くんは先輩が情熱をかけて新聞を作っている姿を見て、自分もあの輪の中に入りたいたいと思い、編集部員になることを決意したそう。新入生に向けて「多くの出会いがあり、出会った人から新しい世界を知ることが出来ます。学校が始まったから、ぜひ体験に来てみてください」と話した。（雀）

オンライン編集をやってみた

1年生は入学式後、休校期間をどう過ごしているだろうか。今回は、ちよつと前から配信が始まった『錦城高校新聞』オンライン版ができるまでを紹介（編集部2年生共同編集）します。

オンライン編集に挑戦

新聞を作るとき最初にやることは、編集会議。これは普段の新聞づくりと変わりません。テーマや記事の担当、紙面の構成などを決めます。この休校期間中は、編集委員でいくつかのグループに分かれて新聞作成に挑戦しています。グループの話し合いはLINE上で。テーマは休校期間だからこそ取り組めるようなものを探しています。

オンライン編集に挑戦。新聞を作るのは、編集会議。これは普段の新聞づくりと変わりません。テーマや記事の担当、紙面の構成などを決めます。この休校期間中は、編集委員でいくつかのグループに分かれて新聞作成に挑戦しています。グループの話し合いはLINE上で。テーマは休校期間だからこそ取り組めるようなものを探しています。